

# AL アクティブラーニング × R-CAP for teens

生徒の「言語活動の充実」をはかり、  
「思考力・判断力・表現力 の育成」を促進する

## R-CAP for teens を利用した 『キャリア教育』授業の進め方

- 先生方にとっては、教科科目でAL型授業を導入する前に、キャリア教育で体験してみることができます。
- すでに教科科目でAL型授業を導入されている先生方は、その体験を活かしてキャリア教育を進めることができます。



### 監修 小林昭文先生

産業能率大学 経営学部 教授  
元・埼玉県立越ヶ谷高等学校 教諭

カウンセリング、コーチング、アクションラーニング(質問会議)などを学んだ後、2007年から高校物理でAL型授業を開発し実践。2013年3月に定年退職後、AL型授業を普及するため年間70回の研修会講師を務める。

私が高校物理をAL型に切り替えるきっかけはキャリア教育やLHR等で、グループワークを行っていたことです。今回のキャリア教育授業が、ご自身の教科科目をAL型授業に転換するヒントになればと願っています。

# R-CAPを使った、アクティブラーニング型授業案

## テーマ

「R-CAPの結果を理解し、高校生活の方向を見つけよう」

## ねらい

- ① アクティブラーニング型授業やキャリア学習が「楽しくためになる」と感じてもらう。
- ② R-CAPの結果を理解し、新たな自己理解を促進する。
- ③ 大学受験や就職に向けて「人生」を意識した広い視野を持つきっかけをつくる。
- ④ 「話し合う力」「協力して考える力」を養成する。

## この授業を通じて先生方に感じていただきたいこと

- ① 「AL型授業」や「キャリア学習(教育)」は「楽しくためになる」と感じてもらう。
- ② R-CAPの結果は生徒の自己理解やキャリア形成に効果があると感じてもらう。
- ③ アクティブラーニング型授業は「それほど難しくない」「自分の教科でもできそう」と感じてもらう。

## 授業展開例 [50分] (想定生徒数:30~50名)

### 準備

- ① R-CAP結果報告書(+クリアファイルセット) ② ワークシート
- ③ 教員用指導マニュアル ④ グループ別着席の指示

※資料が多いので開始前に「結果報告書」「ワークシート」等は事前に配布しておくことが望ましい。(係の生徒が配布、担任が早めに教室に行くなど)

5分  
10分  
25分  
10分

### 導入

ねらい・内容	先生から伝えること	備考
●配布資料の確認	資料が全部揃っているか確認しましょう。	
●目的の説明	キャリア学習の目的は自分の特徴を知って、自分らしい人生を描いて準備をすることです。今日はR-CAPの結果を基に自己理解を進めましょう。	「授業展開」のプリントを配布して説明すると楽です。時間も節約できます。
●ルールの説明	自己理解は他者理解なしには得られません。だから、友達と一緒にワイワイやりながら進めましょう。	

POINT 1・2

### ワーク1

●ワークシート ①を行なう	まずは①をやってください。時間は10分間です。「読んで」「書いて」「覗いて」「考えて」ください。※3~5分間を〈個人作業〉として、そのあと、「ここから友達と話し合ってください」と指示しても良いです。	「5分前です」「3分前です」などが時間コントロールに役立ちます。
------------------	---	----------------------------------

### ワーク2

●ワークシート ②③④を行なう	次は②③④をやります。時間は25分間です。※②は5分間、③④は10分間を目安にして、「そろそろ③に移りましょう」などと声を掛けてやるとテンポが良くなります。	POINT 3
--------------------	--	---------

### 終結

●ワークシート ⑤を行なう	それでは最後に⑤をやります。⇒時間が来たら回収して解散。	途中の生徒もそこまでにして、「感想」をやらせます。
------------------	------------------------------	---------------------------

### 直後

※未提出がないか、気になる記述はないか、簡単にチェックすることをお勧めします。

### 事後

※検印等を押してできるだけ早く返却することをおすすめします。

# 授業展開ポイント

## 一番大切なことはこれです！

- この授業展開例にとらわれずに、担当の先生のアイデアで臨機応変に作り変えてください。
- 学校やクラスの雰囲気に合わせて、担当の先生の強みを活かして、実施してください。
- 生徒に「安全安心の場」を提供することが、「自己理解」「気づき」の原動力です。

### Point 1

#### 目的・目標・ルールについて（以下は例となります。）

- 目的 → R-CAPの結果を理解して、自分の人生について考えるきっかけにする。
- 内容目標 → 「自分のタイプ」「満足できそうな職業・学問」を知り、気づいたことを書く。
- 態度目標 → 「友達と話し合う」「困ったときは互いに助け合う」「お互いの内容を見せ合って自己理解と他者理解を深める」「おしゃべり、立ち歩き自由。積極的に取り組もう」「友達が書いている内容を批判したり、茶化したりしない」など。

### Point 2

#### 先生の説明を減らす以下の工夫が役に立ちます。

- ワークシートにはルール等含め、何をやれば良いかがほとんど書いてあります。  
→生徒には、「ワークシートを読んでやってください」「わからないことは友達に聞いてみましょう」と促すことで「思考力・判断力・表現力」を高めることができます。
- 「授業案」を生徒向けに書き直したものを配布することもおすすめです。  
→データ(エクセル版AL型授業の進め方)の用意がありますので、クラスの状況に合わせて書き直してお使い下さい。これがあると生徒は全体の時間を意識しながら進めることができます。

### Point 3

#### グループワークをうまく進めるには、質問を使って積極的な介入をしてください。

- 「態度の目標にそってうまく進んでいますか？」
- 「批判したり茶化したりしないは守られていますか？」
- 「おしゃべり、立ち歩きはなど積極的に取り組んでいますか？」
- 「わからないことは質問したり教えてあげたりできていますか？」

- 「友達同士で協力できていますか？」
- 「あと〇分ですが、順調に進んでいますか？」
- 「チームで協力できていますか？」

#### 個別に対応した方が良いこともあります。

- 進行が遅い生徒には…  
「慌てなくてもいいよ。自分のペースでやりましょう。全部終わらなくても、最後の振り返りだけは やってください。残った分は自宅ですべてやってみてください。」
- グループワークが苦しい生徒には…  
「離れてやってもいいよ。できるところは友達と協力してね。誰にも質問できないなら、私(先生)にしてね。」(時々近くに行って「質問はない?」と尋ねてください。)

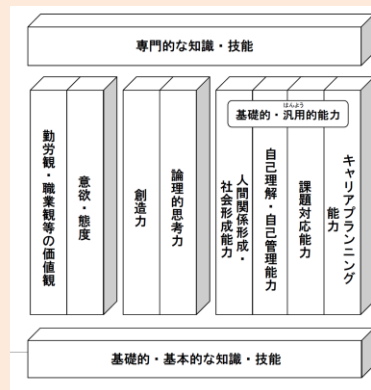
#### その他、こんなことも役立つかも。

- 国語辞典、英和辞典、電子辞書なども用意させる。  
意外に生徒は「読めない字」「意味がわからない言葉」がある場合があります。
- インターネットにつながるPC・スマートフォンなどがあると、知らない仕事や学問について調べることができます。学校のルールとの兼ね合いもありますが、この時間だけでもケータイやスマホ使用を許可すると効果的です。
- 図書室や進路指導室にある「職業に関する本」「学問リスト」などの本も役に立ちます。
- 色々な会社が届けている資料集の中にも役立つものがあります。

## 《キャリア教育をアクティブラーニング型授業（AL型授業）で行うメリット》

### AL型授業のキャリア教育との親和性と効果

- ① AL型授業の主な効果は、主に以下の内容があります。
  - ☑「居眠りがなくなる」
  - ☑「成績が上がる」
- ② その他にも、以下のような効果があります。
  - ☑「学習意欲が高まる」
  - ☑「クラスの間関係が良くなる」
  - ☑「新しい解き方を考えるなどの創造力が鍛えられる」
  - ☑「他者との協同で自己理解や他者理解が深まる」
- ③ 上記の①②の効果は、右図のキャリア教育で育成したい能力とよく似ています。つまり、AL型授業は「教科科目を通したキャリア教育」ということも言えるのです。



### AL型授業と(R-CAPを利用した)キャリア教育授業のスキルの共通部分と違い

- ① 共通しているのはファシリテーション・スキルです。生徒達が「能動的に話し合ったり」「グループで相談したり考えたり」できるように、指示や禁止よりも、説明や質問を通して、より良い行動を促す技術をファシリテーション・スキルといいます。
- ② 違いは「知識の伝達の量」です。教科科目ではそれが多いために「教える技術（ティーチング・スキル）」が重要になってきます。つまり、AL型授業はファシリテーション・スキルとティーチング・スキルのハイブリッド（混合・複合）型の授業であるということもできます。この組み合わせ方をどう開発するかが、初心者にとっては少し難しいことがあります。

### キャリア教育授業をAL型で行うことで、教科科目の授業改善のヒントが得られる

- ① この資料で紹介・提案しているAL型授業は、教科科目の授業をAL型授業に切り替えるときに、そのまま役立つ構造を取り入れています。したがって、この授業を実際に実施してみることで、その効果を体感でき、自分の専門科目において取り入れるときのヒントになります。
- ② 以下はヒントとなる具体例です。
  - ☑「授業目的を明示する」
  - ☑「目標を内容目標（コンテンツ）と態度目標（プロセス）のルールに分ける」
  - ☑「時間配分（授業の進め方）を明示する」
  - ☑「生徒の安全安心を大事にする」
  - ☑「質問を中心とした介入によって、安全安心を損なうことなく行動修正を促す」
  - ☑「様々な個性・特性を持った生徒にも対応できる柔軟性を持っている」
  - ☑「『あと〇分ですが、順調ですか？』などの介入で生徒の時間管理能力を高める」
  - ☑「振り返りをさせる（感想を書かせる）ことで、自己理解や他者理解、行動変容を促進できる」
- ③ これらのことを基に、専門科目における毎日の授業の理進め方を少しずつ改善してみることをお勧めします。

### 教科科目の授業改善を進めるときの留意点

#### （生徒に対して）

- ① 授業の形を変えるときに「なぜ変えるのか」「どう変えるのか」の説明をしましょう。
- ② 「感想」をとりましょう。生徒達の感想や意見が「次の一手」のヒントです。

#### （先生達に対して）

- ③ 事前に相談をし、了解を得ましょう。「教科全体の足並みが崩れる」「グループワークの話し声や机の移動がうるさくてびっくりした」などと言われて断念したという話がよくあります。
- ④ できれば、一緒に始める同僚を作りましょう。ひとりぼっちでは長続きしにくいものです。